

【個人研究】

社会福祉現場実習の学習効果について

長屋 美穂子\*

The Effect of Social Work Field Practice

Mihoko Nagaya

Here this report is the result of an investigation into the actual condition to fifty three students who major in the seminar "social work supporting technique". They are in the third grade of the human sciences faculty as of 1996.

The purpose is for grasping some factors about our students, namely knowledge about social work itself and the job in connection with social work, mental attitude and state just before starting their social work practice, experience and study by the field practice, and impressions and reflection after it. The change of practice effect is grasped by analyzing these factors.

Every students had twice practices. The investigation to the student was held just one week before and after each practice. Questionnaire was used as the procedure.

Here I will summarize the result. Their tension of second practice becomes weaker than first one. Their knowledge about social work increases and their study effect on building human relation is remarkable. But some give up getting the job of social work through their practice.

For the student who wants to be social worker in the future, field practice is the first barrier. I think this experience has an important effect on their thoughts.

はじめに

本稿は、1996年度において人間科学部3年生社会福祉援助技術演習の現場実習生に対し実施した実態調査の報告である。

社会福祉援助技術演習に関する概要は「人間科学研究」文教大学人間科学部紀要第18号(1996)において報告したため省略する。

1996年度の実習生は53名(4年生1名を含む)であった。

本学部は一人の学生が2か所で実習するた

め、延べにして105名(都合上1名は1か所のみ)を各機関・施設におくりだしたことになる。

ほとんどの学生が学外実習は初めての経験である。毎年感じることであるが、実習生の実習前後を比較すると、精神的な成長を意識させられる。またその現場実習をとおして社会とのつき合い方を学習していることがうかがえる。

ところで、実習に対しての緊張・期待・不安などは若干の個人差はあるものの、必ず抱えているようである。その傾向は、実習生の報告や態度から年毎に強まっているようである。

\*ながや みほこ 文教大学人間科学部人間学専修

## 調査の目的

実習生の社会福祉及び社会福祉関係の職業に対する知識の程度、実習前の心構え・心境など、また実習中に体験・学習したこと、実習後の感想・反省など実習効果の推移を数値で把握するため、実習生の協力のもとにこの実態調査を試みた。なお、より詳細に把握するため記述欄を多く設け参考にした。

## 調査の方法

上記の目的に応じ作成した質問紙をすべての実習（一人2か所）について、実習開始1週間前及び実習終了1週間後に記入させた。

都合上1週間以上の休暇がある場合は郵送の形態をとり、記入後はただちに回収した。

1996年度の実習は1996年7月21日からスタートし、翌年1997年3月14日をもって全員が終了した。

調査対象になった実習先は次のとおりである。

### [児童相談所] (合計31名)

|     |         |    |
|-----|---------|----|
| 埼玉県 | 中央児童相談所 | 2名 |
| "   | 越谷児童相談所 | 1名 |
| "   | 浦和児童相談所 | 2名 |
| "   | 所沢児童相談所 | 2名 |
| "   | 川越児童相談所 | 2名 |
| "   | 熊谷児童相談所 | 1名 |
| 東京都 | 足立児童相談所 | 1名 |
| "   | 品川児童相談所 | 1名 |
| "   | 隅田児童相談所 | 1名 |
| 千葉県 | 中央児童相談所 | 2名 |
| "   | 市川児童相談所 | 2名 |
| "   | 柏児童相談所  | 2名 |
| 横浜市 | 中央児童相談所 | 2名 |
| "   | 南部児童相談所 | 1名 |
| 茨城県 | 中央児童相談所 | 2名 |
| "   | 土浦児童相談所 | 2名 |
| "   | 下館児童相談所 | 1名 |
| 栃木県 | 県南児童相談所 | 1名 |
| 山梨県 | 中央児童相談所 | 1名 |

|     |         |    |
|-----|---------|----|
| 長野県 | 中央児童相談所 | 1名 |
| 群馬県 | 太田児童相談所 | 1名 |

### [福祉事務所] (合計17名)

|     |            |    |
|-----|------------|----|
| 埼玉県 | 越谷市福祉事務所   | 3名 |
| "   | 草加市福祉事務所   | 3名 |
| "   | 加須市福祉事務所   | 1名 |
| "   | 和光市福祉事務所   | 1名 |
| "   | 久喜市福祉事務所   | 1名 |
| "   | 埼玉葛福祉事務所   | 1名 |
| 東京都 | 品川区福祉事務所   | 1名 |
| "   | 江戸川区福祉事務所  | 1名 |
| "   | 足立区西部福祉事務所 | 1名 |
| 千葉県 | 市原市福祉事務所   | 1名 |
| 群馬県 | 館林市福祉事務所   | 1名 |
| "   | 西部福祉事務所    | 1名 |
| 茨城県 | 境地方福祉事務所   | 1名 |

### [乳児院] (合計2名)

|          |    |
|----------|----|
| 国府台聖愛乳児園 | 2名 |
|----------|----|

### [養護施設] (合計11名)

|                 |    |
|-----------------|----|
| 埼玉県社会福祉事業団 上里学園 | 1名 |
| 興望館 沓掛学荘        | 3名 |
| 養護施設 雀幸園        | 2名 |
| 養護施設 光の子どもの家    | 1名 |
| 養護施設 三愛学園       | 1名 |
| 養護施設 あゆみ学園      | 3名 |

### [教護院] (合計5名)

|          |    |
|----------|----|
| 東京都立誠明学園 | 2名 |
| 山梨県立甲陽学園 | 3名 |

### [虚弱児施設] (合計4名)

|            |    |
|------------|----|
| 児童愛護会 一宮学園 | 4名 |
|------------|----|

## [精神薄弱者更生施設] (合計4名)

|              |    |
|--------------|----|
| 神奈川県立中井やまゆり園 | 2名 |
| 尚 恵 厚 生 園    | 2名 |

## [身体障害者更生施設] (合計3名)

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 国立身体障害者<br>リハビリテーションセンター | 3名 |
|--------------------------|----|

## [婦人保護施設] (合計10名)

|         |     |
|---------|-----|
| かにた婦人の村 | 10名 |
|---------|-----|

## [特別養護老人ホーム] (合計18名)

|                        |    |
|------------------------|----|
| 特別養護老人ホーム 西山苑          | 7名 |
| 特別養護老人ホーム 嘉祥園          | 2名 |
| 特別養護老人ホーム<br>マイホームきよはら | 2名 |
| 特別養護老人ホーム<br>やすらぎの里大田原 | 2名 |
| 特別養護老人ホーム<br>やすらぎの里大泉  | 4名 |
| 特別養護老人ホーム<br>マイホームはるみ  | 1名 |

## 調査の内容

## \*実習前 [1回目だけの質問]

①社会福祉及び社会福祉関係の職業に対する意識

## \*実習前 [1・2回目共通質問]

②実習先までの通勤時間について (予想)

③実習先で関わる人々に対する意識 (予想)

④事前学習について

⑤実習前の心境及び様子

## \*実習後 [1・2回目共通質問]

⑥実習先までの通勤時間について (結果)

⑦実習中体験したこと

⑧事前学習の効果について

⑨実習後の心境及び感想

⑩社会福祉や社会福祉関係の職業に対する関心の度合い

## \*1・2回目共終了後の感想

## 調査の結果

実習生53名中の回収件数は以下のとおりである。

1回目の実習前 (53件中) 52件 (男14女38)

" 後 ( " ) 48件 (男12女36)

2回目の実習前 (52件中) 51件 (男13女38)

" 後 ( " ) 50件 (男13女37)

## \*実習前 [1回目だけの質問]

注; %は男女合計したもの

①社会福祉及び社会福祉関係の職業に対する意識

①-1 社会福祉関係の職業に興味を持ち始めた時期については次のとおりである。

|        |      |
|--------|------|
| 1. 小学生 | 3.8% |
| 2. 中学生 | 7.7  |
| 3. 高校生 | 32.7 |
| 4. 大学生 | 52.0 |
| 5. その他 | 1.9  |
| 未 記 入  | 1.9  |

男女共、大学生になってからが多く、なお小学生時代に意識している人は1名である。

①-2 社会福祉関係の職業に関心を持った理由については次のとおりである。

|               |       |
|---------------|-------|
| 1. 人のために尽くしたい | 17.3% |
| 2. やりがいのある職業だ | 48.1  |
| 3. 親や他人に勧められた | 0     |
| 4. 何となくやってみたい | 21.2  |
| 5. その他        | 11.5  |
| 未 記 入         | 1.9   |

男女共、やりがいのある職業だと思っている人が多く、親や他人に勧められたという項目に該当者はなく、全員が自分の意志であることを述べている。

①-3 社会福祉関係の職業に対するとらえ方は次のとおりである。

|                  |       |
|------------------|-------|
| 1. 非常に大変な職業だと思う  | 65.4% |
| 2. 多少大変な職業だと思う   | 15.4  |
| 3. 普通だと思う        | 1.9   |
| 4. それほど大変だとは思わない | 0     |
| 5. 楽な仕事だと思う      | 0     |
| 6. やってみなければわからない | 17.3  |

男女共、非常に大変な職業だと思っている人が多く、安易な職業と思っている人は全くいないようである。

①-4 社会福祉に関する知識の程度については次のとおりである。

|                 |      |
|-----------------|------|
| 1. 大変よく知っていると思う | 0%   |
| 2. 多少知っていると思う   | 28.8 |
| 3. 普通だと思う       | 25.0 |
| 4. あまり知識はないと思う  | 44.3 |
| 5. 全く知識はないと思う   | 1.9  |

社会福祉に関する知識の程度に男女差があり、男子は多少知っていると思う、女子はあまり知識はないと思う人が多い。

社会福祉に関する知識は、男子より女子の方が、比較的控えめに回答しているように思われる。

①-5 社会福祉士の役割についての知識の程度は次のとおりである。

|                 |      |
|-----------------|------|
| 1. 大変よく知っていると思う | 0%   |
| 2. 多少知っていると思う   | 26.9 |
| 3. 普通だと思う       | 26.9 |
| 4. あまり知識はないと思う  | 44.3 |
| 5. 全く知識はないと思う   | 1.9  |

社会福祉士の役割についての知識の程度に男女差があり、男子は普通だと思う・多少知っていると思う、女子はあまり知識はないと思う人が多い。なお男女共大変よく知っていると思っている人はいない。

前項目の社会福祉に関する知識及び社会福祉士に関する知識についての自己評価は、男子より女子の方が比較的厳しいように思われる。

社会福祉に関する職業に対しては、やりがいがあり大変な職業だと思っているが、実際の知識の程度についての設問に対しては少々控えめのように思われる。

\*実習前 [1・2回目共通質問]

②実習先までの通勤時間について

それぞれ個人の予想としての通勤時間については次のとおりである。

|               | 1回目   | 2回目   |
|---------------|-------|-------|
| 1. 遠いので大変だと思う | 25.0% | 19.6% |
| 2. 多少大変だと思う   | 26.9  | 29.4  |
| 3. 普通だと思う     | 13.5  | 9.8   |
| 4. 特に気にならない   | 25.0  | 25.5  |
| 5. その他        | 9.6   | 15.7  |

実習生にとって実習はもちろんのこと通勤時間も重要なことのひとつでもある。

当学部では実習先を決定する際に通勤時間も考慮し、通勤可能な距離・時間を設定している。(宿泊の場合は別)

半数以上が大変だと思っているが、それは男子より女子の方が比較的多いようである。

③実習先で係わる人々に対する意識

③-1 実習先の指導者に接することについての心境は次のとおりである。

|                | 1回目   | 2回目   |
|----------------|-------|-------|
| 1. とても楽しみにしている | 13.5% | 17.6% |
| 2. 多少楽しみにしている  | 17.3  | 25.5  |
| 3. 何とも思わない     | 5.8   | 11.8  |
| 4. 少々気になる      | 48.0  | 33.3  |
| 5. 非常に気になる     | 13.5  | 11.8  |
| 6. その他         | 1.9   | 0     |

1回目、男子は多少楽しみにしている、女子は少々気になる人が多い。

2回目、男子はそれぞれの項目から平均して選択していて、女子は1回目と同様に少々気になる人が多い。

総合して単純に見ると1・2回目共少々気

になる人が多いが、非常に気になる割合は1回目より2回目の方が少なくなっている。逆にとても楽しみにしている・多少楽しみにしている・何とも思わない人の割合が増加していて、いわゆる2回目の方が多少ではあるが気分的に楽になったように思われる。

③-2 実習先の入所者や通所者に接することについての心境は次のとおりである。

|                | 1回目   | 2回目   |
|----------------|-------|-------|
| 1. とても楽しみにしている | 17.3% | 25.5% |
| 2. 多少楽しみにしている  | 26.9  | 25.5  |
| 3. 何とも思わない     | 5.8   | 5.9   |
| 4. 少々気になる      | 30.8  | 33.3  |
| 5. 非常に気になる     | 19.2  | 9.8   |

1回目、男子はそれぞれの項目から平均し選択しているが、女子は少々気になる・多少楽しみにしている人が多い。

2回目、男子はとても楽しみにしている人が多いが、女子は1回目と同様少々気になる・多少楽しみにしている人が多い。

総合して、とても楽しみにしている人は1回目より2回目の方が多く、非常に気になる人は1回目より2回目の方が減少している。

指導して下さる職員に対する心境と同様に、実習先の入所者や通所者に接することについても2回目の方が気分的に楽になっているように思われる。

④事前学習について

個人が指導を受ける実習先についての事前学習は次のとおりである。

|                                   | 1回目  | 2回目  |
|-----------------------------------|------|------|
| 1. 大変よく調べたと思う                     | 0%   | 0%   |
| 2. 多少調べたと思う                       | 34.6 | 29.4 |
| 3. 学校での学習および実習先での事前打ち合わせ会の知識のみである | 53.9 | 58.9 |
| 4. 実習が始まればわかるので調べる必要はないと思う        | 1.9  | 3.9  |
| 5. その他                            | 9.6  | 7.8  |

1回目、男子は多少調べたと思う・学校での学習および実習先での事前打ち合わせ会の知識のみである人が多いが、女子は半数以上が学校での学習および実習先での事前打ち合わせ会の知識のみである人が多い。

2回目、男女共、学校での学習および実習先での事前打ち合わせ会の知識のみである人が多い。

総合して、1回目より2回目の方が学校での学習および実習先での事前打ち合わせ会の知識のみである・実習が始まればわかるので調べる必要はないと思う人が多く、逆に多少調べたと思う人は減少している。なお1・2回目共大変よく調べたと思う人はいないようである。

要するに1回目より2回目の方が、心にゆとりができたことが想像できる。

⑤実習前の心境および様子

実習目前の心境は次のとおりである。

|               | 1回目   | 2回目   |
|---------------|-------|-------|
| 1. 非常に緊張している  | 30.8% | 25.5% |
| 2. 多少緊張している   | 57.7  | 53.0  |
| 3. 何とも思わない    | 1.9   | 3.9   |
| 4. あまり緊張していない | 9.6   | 7.8   |
| 5. 全く緊張していない  | 0     | 3.9   |
| 6. その他        | 0     | 5.9   |

1・2回目、男女共、多少緊張している人が多い。

総合して、1回目より2回目の方が、非常に緊張している・多少緊張している・あまり緊張していない人が減少していて、逆に、何とも思わない・全く緊張していない人が増加している。

要するに1回目の経験からある程度の知識を得たため、2回目の方が個人差はあるものの緊張感が緩和されていると思われる。

\*実習後 [1・2回目共通質問]

⑥実習先までの通勤時間について

実際に実習先に通勤した結果は次のとおり

である。

|                  | 1回目   | 2回目   |
|------------------|-------|-------|
| 1. 遠かったので大変だと思った | 22.5% | 32.0% |
| 2. 多少大変だと思った     | 20.4  | 28.0  |
| 3. 普通だと思った       | 18.4  | 4.0   |
| 4. あまり気にならなかった   | 20.4  | 10.0  |
| 5. 全く気にならなかった    | 16.3  | 12.0  |
| 6. その他           | 2.0   | 10.0  |
| 未記入              |       | 4.0   |

1回目、男女共、それぞれの項目から平均して選択している。

2回目、男子は大変だった・気にならなかったに二分されているが、女子は半数以上が大変だったという結果である。

時間の長短よりも、むしろ個人の感じ方による回答と思われる。

#### ⑦実習中体験したこと

⑦-1 実習先での指導内容について思ったことは次のとおりである。

|             | 1回目   | 2回目   |
|-------------|-------|-------|
| 1. 充分満足している | 26.5% | 30.0% |
| 2. やや満足している | 32.7  | 38.0  |
| 3. 普通だと思う   | 26.5  | 20.0  |
| 4. やや不満に思う  | 10.2  | 10.0  |
| 5. 非常に不満である | 4.1   | 2.0   |

1回目、男子は普通だと思う、女子はやや満足している人が多い。

2回目、男子は充分満足している・やや満足している、女子は1回目と同様にやや満足している人が多い。

総合して、充分満足している・やや満足している人を加えると1回目59.2%、2回目68.0%である。

なお不満に思っている人は次のようなことを指摘している。

- 実習生の受け入れ体制が不十分
- 指導者の補助的存在であった
- 指導内容が具体化されていない
- 入所者や通所者との接する機会がない

- 実習先の都合上守秘義務などの関係上、内容を把握することが難しかった

⑦-2 実習先の指導者との人間関係については次のとおりである。

|                 | 1回目   | 2回目   |
|-----------------|-------|-------|
| 1. 大変良かったと思う    | 22.4% | 22.0% |
| 2. だいたい良かったと思う  | 59.2  | 68.0  |
| 3. 何とも思わない      | 8.2   | 6.0   |
| 4. あまりよくなかったと思う | 10.2  | 4.0   |
| 5. 非常に悪かったと思う   | 0     | 0     |

1・2回目、男女共、だいたい良かったと思う人が多い。大変良かったと思うを加えると、1回目81.6%、2回目90%で、ほとんどの人がよりよい関係を保つことができたようである。

非常に悪かったと思う項目に該当者はいないが、あまり良くなかったと思う人は次のようなことを指摘している。

- 一方的指導で実習生の話を聞いてもらえない
- 指導的助言がない
- 社会福祉士というより保母の立場からの指導であった

⑦-3 実習先の指導者以外の職員の方々との人間関係については、次のとおりである。

|                 | 1回目   | 2回目   |
|-----------------|-------|-------|
| 1. 大変良かったと思う    | 18.4% | 16.0% |
| 2. だいたい良かったと思う  | 57.1  | 62.0  |
| 3. 何とも思わない      | 14.3  | 8.0   |
| 4. あまりよくなかったと思う | 0     | 8.0   |
| 5. 非常に悪かったと思う   | 0     | 0     |
| 未記入             | 10.2  | 6.0   |

1回目、男子は大変良かったと思う、女子はだいたい良かったと思う人が多い。

2回目、男女共、だいたい良かったと思う人が多い。

総合して、大変良かったと思う・だいたい

良かったと思うを加えると、1回目75.5%、2回目78%で、直接の指導者との関係より良かったと思うその割合は若干低い。実習先によっては指導者以外の職員の方に接する機会が少なく、設定項目の何とも思わないまたは未記入が目立った。

なお2回目においてあまり良くなかったと思う人がいたが、次のようなことを指摘している。

- ・実習生は歓迎できないといわれた
- ・同じ実習生でも差別された
- ・特定の人だけ接した

⑦-4 実習先の入所者や通所者の方々の人間関係については次のとおりである。

|                 | 1回目   | 2回目   |
|-----------------|-------|-------|
| 1. 大変良かったと思う    | 30.6% | 24.0% |
| 2. だいたい良かったと思う  | 51.0  | 64.0  |
| 3. 何とも思わない      | 0     | 2.0   |
| 4. あまりよくなかったと思う | 4.1   | 0     |
| 5. 非常に悪かったと思う   | 0     | 0     |
| 未 記 入           | 14.3  | 10.0  |

1回目、男子は大変良かったと思う、女子はだいたい良かったと思う人が多い。

2回目、男女共、だいたい良かったと思う人が多い。

総合して、大変良かった・だいたい良かったと思うを加えると、1回目81.6%・2回目88%で、入所者や通所者の方々とよりよい関係を保つことができたようである。

未記入者は接する機会がなかった人である。

あまり良くなかったと思う人は次のようなことを指摘している。

- ・積極的に接することができなかった
- ・障害者に対して同情してしまい、気持ちが圧倒された
- ・異性との接触を禁じられた

⑦-5 実習先での入所者や通所者の方々の様子について感じたことは次のとおりである。

|                   | 1回目  | 2回目   |
|-------------------|------|-------|
| 1. とても満足そうに見えた    | 6.1% | 14.0% |
| 2. やや満足そうに見えた     | 53.1 | 50.0  |
| 3. 何も感じない         | 8.2  | 4.0   |
| 4. 少々不満そうに見えた     | 6.1  | 18.0  |
| 5. 非常に不満そうに見えた    | 0    | 2.0   |
| 6. その他            | 10.2 | 8.0   |
| 7. 接する機会がなかったのだから | 16.3 | 4.0   |

1・2回目、男女共、やや満足そうに見えたを選択している人が多い。

その他の内容をまとめると、入所者や通所者に個人差があり一概に決められないということである。

⑧事前学習の効果について

実習に対して大学での事前学習について思ったことは次のとおりである。

|                        | 1回目   | 2回目   |
|------------------------|-------|-------|
| 1. 大学での学習で十分であると思う     | 30.7% | 28.0% |
| 2. 大学での学習はほどほどでいいと思う   | 20.4  | 28.0  |
| 3. 何とも思わない             | 8.2   | 6.0   |
| 4. 大学での学習はそれほど必要とは思わない | 12.2  | 12.0  |
| 5. 大学での学習は全く必要ないと思う    | 0     | 6.0   |
| 6. その他                 | 26.5  | 20.0  |
| 未 記 入                  | 2.0   | 0     |

1回目、男子は大学での学習で十分だと思う・大学での学習はほどほどでいいと思う、女子は大学での学習で十分だと思う・その他の項目を多くの人が選択している。

2回目、男女共、大学での学習で十分だと思う・大学での学習はほどほどでいいと思う人が多い。

その他の内容は、大学での学習が不十分ということを指摘している。

大学での講義をあまり期待しないという内容で設定した2～5の項目を選択した人の意見を聞いてみると次のようなことを指摘して

- 大学での学習と実習内容が異なっていた
- 事前の実技の学習や福祉機関でのボランティア活動が必要
- 実習先で身体で覚えた方が早い
- 実習内容が社会福祉士の立場ではなく保母の立場であったため大学での学習は意味がない

⑨実習後の心境及び感想

⑨-1 実習で最も印象に残っていることを一つ選択しその理由を簡単に述べよ、の問に対しては次のとおりである。

|             | 1回目   | 2回目   |
|-------------|-------|-------|
| 1. 指導者      | 12.2% | 20.0% |
| 2. 指導者以外の職員 | 12.2  | 12.0  |
| 3. 入所者や通所者  | 59.2  | 48.0  |
| 4. 施設・機関の設備 | 8.2   | 14.0  |
| 5. その他      | 8.2   | 6.0   |

1・2回目、男女共、最も印象に残っていることは、入所者や通所者を選択している人が多い。

設定した項目すべてに該当者がいたため、それぞれの選択理由を1・2回目共簡単にまとめたものを次に示す。

○指導者を選択した理由

- 問題意識をもって指導して頂いた
- 人柄がすばらしかった
- 丁寧に親切に真剣に指導して頂いた
- 人間的に尊敬できる方であった
- 大変明るく実習後も遊びにいける雰囲気であった
- 社会福祉士の実習ということを理解し指導して頂いた
- 入所者や来所者に対して思いやりがあった
- いつも気づかって下さり話しやすかった
- いつも忙しそうに動いていて、その精神力に驚いた

○指導者以外の職員を選択した理由

- 皆さんがとても若々しく決まった型におさ

まっていないでのびのびと仕事をしておられた

- 指導方法が見事であった
- 仕事に関することや人間関係について生の声を聞かせて頂いた
- 人間味にあふれ明るく親切であった
- 福祉に携わる人の人間性に感銘を受けた

○入所者や通所者を選択した理由

- 健常者とあまり変わりがないように見えた
- 今までの接しなかった人々に出会えた
- ふれ合う中でいろいろな経験ができた
- 皆明るく親しみを持って接して頂いた
- 最初は話しかけても反応があまりみられなかったが、少しずつ受け入れてもらえた
- 実習生をあたたく迎え入れて頂いた
- 少ない機会の中ですばらしい接し方ができた
- 最重度の方が食事や作業や排泄などを日常においてあたり前のように行なっておられることについて考えさせられた
- 生きることの多面生を考えさせられた
- 通所者の方々の笑顔がとてもすてきで楽しかった
- 関わる毎に互いに信頼感が生まれた
- 個性的な人にたくさん出会った
- いろいろな体験をし、考えさせられたことが多かった
- 短い間だったが、皆さんと親しく話ができるようになりとても楽しく過ごすことができた
- サービスを受ける人の中で強く拒む人がいた
- 入所者の方が職員に対して話しづらい印象を受けた

○施設・機関の設備を選択した理由

- 区内の様々な施設を見学し、きれいなところが多かった
- あらゆるものがそろっていてスケールが大きいと思った
- 施設よっての違いに驚かされた
- 多くの施設訪問を経験でき、より具体的に

理解することができた

- 福祉・保険・医療が一体となっていた
- とても充実していた
- 新しいものが多く費用もかかっているように思えた
- 入所者や通所者にとって少々くらい雰囲気を感じるのではと感じた

#### ○その他を選択した理由

- 指導者も含めた職員がなぜこの仕事についてのか、この仕事をしてよかったと思うことについて
- ケースファイルを読ませて頂き虐待について学んだこと
- 子供との関わり方など全体を見る視野の広さがあった
- 指導者と利用者との人間関係について
- 不登校などの問題を持った子供たちとのキャンプ
- 実習先での職員の方々との懇談会
- 実際に起こっているケースの内容がショックで印象的だった

#### ⑨-2 実習中の緊張の度合いについて、個人に該当したことは次のとおりである。

|               | 1 回目  | 2 回目  |
|---------------|-------|-------|
| 1. 非常に緊張した    | 34.7% | 30.0% |
| 2. 多少緊張した     | 36.8  | 42.0  |
| 3. 普通だと思う     | 16.3  | 12.0  |
| 4. あまり緊張しなかった | 10.2  | 14.0  |
| 5. 全く緊張しなかった  | 2.0   | 2.0   |

1 回目、男子は非常に緊張した、女子は非常に緊張した・多少緊張した人が多い。

2 回目、男子は多少緊張した、女子は非常に緊張した・多少緊張した人が多い。

総合して、非常に緊張した・多少緊張したを加えると、1 回目71.5%、2 回目72%である。

1 回目より2 回目の方が非常に緊張した割合が減少し、逆に多少緊張した・あまり緊張しなかった割合が増加している。全く緊張し

なかった割合の変化は見られない。

1 回目より2 回目の方が緊張感は少々緩和されたように思われる。

#### ⑨-3 実習を振り返って、その成果の度合いは次のとおりである。

|                    | 1 回目  | 2 回目  |
|--------------------|-------|-------|
| 1. とても充実していたと思う    | 42.9% | 42.0% |
| 2. だいたい充実していたと思う   | 47.0  | 44.0  |
| 3. 何とも思わない         | 2.0   | 2.0   |
| 4. 少々心残りに思うことがある   | 6.1   | 12.0  |
| 5. 全く意味のない実習だったと思う | 0     | 0     |
| 6. その他             | 2.0   | 0     |

1・2 回目、男女共、とても充実していたと思う・だいたい充実していたと思う人が多い。

総合して、とても充実していたと思う・だいたい充実していたと思うを加えると、1 回目89.9%、2 回目86.0%である。

なお少々心残りに思うことがあるを選択した人は次のようなことを指摘している。

- 期間が長くて少しだらだらした
- 十分に学習できなかった
- 事前の学習不足である
- 利用者とうまく関わりをもてなかった
- 職員の方々との良い関係を作れなかった

#### ⑩社会福祉や社会福祉関係の職業に対する関心の度合い

#### ⑩-1 実習終了後、社会福祉に対する関心の度合いについては次のとおりである。

|               | 1 回目  | 2 回目  |
|---------------|-------|-------|
| 1. 一層深い関心を持った | 49.1% | 52.0% |
| 2. やや関心を持った   | 40.8  | 38.0  |
| 3. 何とも思わない    | 6.1   | 4.0   |
| 4. やや関心を失った   | 2.0   | 4.0   |
| 5. 全く関心を失った   | 0     | 0     |
| 6. その他        | 2.0   | 2.0   |

1 回目、男子はやや関心を持った、女子は

一層深い関心を持った・やや関心を持った人が多い。

2回目、男子は一層深い関心を持った、女子は一層深い関心を持った・やや関心を持った人が多い。

総合して、一層深い関心を持った・やや関心を持ったを加えると1回目89.9%，2回目90%であり、実習後にあらためて社会福祉に関心を持った人が多いことがうかがえる。

なおやや関心を失った人が若干見られるがその理由は職員同士の人間関係の悪いことや実習生が思っていたことと現場での相違などが指摘された。

その他の内容は実習前後に変化はないということ述べている。

⑩-2 実習終了後、社会福祉関係の職業に対して感じたことは次のとおりである。

|                    | 1 回目  | 2 回目  |
|--------------------|-------|-------|
| 1. ぜひやってみみたい仕事だと思ふ | 30.6% | 30.0% |
| 2. 何となくやってみたいと思ふ   | 34.8  | 50.0  |
| 3. 何とも思わない         | 12.2  | 4.0   |
| 4. あまりやる気はない       | 8.2   | 8.0   |
| 5. 全くやる気はない        | 2.0   | 0     |
| 6. その他             | 12.2  | 8.0   |

1回目、男女共、ぜひやってみみたい仕事だと思ふ・何となくやってみたいと思ふ人が多い。

2回目、男女共、何となくやってみたいと思ふ人が多い。

総合して、ぜひやってみたい・何となくやってみたいを加えると、1回目65.4%，2回目80%である。

やる気のない人は次のようなことを指摘している。

- 体力が持たない
- 不向きだと思ふ
- 労力に対して賃金が低い
- 人生経験のない状態で福祉の仕事が動まるかどうか不安である

• 他にやりたいことができた

なおその他の内容は、• 難しい職業だと思う • 時間をかけて考えたい • 現場は向いていないと思う • やる気はあるが、自信がない • 職業として体力面精神面において不安である。

⑩-3 実習終了後、社会福祉関係の職業に適しているかどうかについては、次のとおりである。

|                  | 1 回目 | 2 回目 |
|------------------|------|------|
| 1. 非常に適していると思ふ   | 6.1% | 8.0% |
| 2. 何となく適していると思ふ  | 36.8 | 48.0 |
| 3. 何とも思わない       | 16.3 | 16.0 |
| 4. それほど適していないと思ふ | 22.5 | 16.0 |
| 5. 全く適していないと思ふ   | 0    | 2.0  |
| 6. その他           | 16.3 | 10.0 |
| 無 回 答            | 2.0  | 0    |

1・2回目、男女共、何となく適していると思ふ人が多い。

総合して、非常に適していると思ふ・何となく適していると思ふを加えると、1回目42.9%，2回目56%である。

適していないと思ふ人は次のようなことを指摘している。

- 体力的に向かない
- 適応能力はあるが気持ちの上で無理だと思ふ
- 短い実習で判断できない
- 人の悩みを受け止める力はない
- 疲れた
- 労働が激しいため適していないと思ふ
- 能力知識不足
- 性格的に不向きだと思ふ

なおその他の内容は、ボランティアなら良いと思ふ • 適しているというより興味を持った • わからない • 自信がないなどである。

## \* 1, 2回目共終了後の感想

一人2か所の実習を終了し、総合して感想を設問した結果は、次のとおりである。

|                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 2回とも充実していた                  | 76.0% |
| 2. 2回とも不満足であった                 | 2.0   |
| 3. 1回目は充実していたが、<br>2回目は不満足であった | 8.0   |
| 4. 2回目は充実していたが、<br>1回目は不満足であった | 14.0  |

男女共、2回共、充実していた人が多いが、2回のうち1回だけでも満足した人を加えると、実習生のほとんどの人が実習の成果があったと思われる。なお不満足の方は女子1名である。

## ま と め

本学部では社会福祉士の国家試験受験資格取得のための教育課程を実施して今年で7年目である。

社会福祉士を目指す本学部学生による社会福祉や社会福祉現場実習に対する意識を、以下のようにまとめた。

社会福祉関係の職業に対しては、やりがいがあり大変な職業だと思っているが、実際の知識の程度についての設問に対しては少々控えめのように思われる。

実習前は実習指導者・実習指導者以外の職員・入所者や通所者との人間関係について約半数が気になるようである。なお1回目より2回目の方が1回目の経験から気分的に楽になっていることがうかがえる。

事前学習については大変良く調べた人はなく、学校での学習及び実習先での事前打ち合わせ会の知識のみであるという人が多い。

実習前の心境は緊張している人が多く、1回目より2回目の方が、緊張感が緩和されている。

実習中の指導内容について満足している人は1回目59.2%、2回目68%であり、多少厳

しく評価しているように思われる。

実習先の指導者・指導者以外の職員・入所者や通所者との人間関係は、よりよい関係を保つことができた人が多く、いずれも1回目より2回目の方が割合が若干高い。それは対人関係の学習効果ではなからうか。

事前学習の効果については、設定した項目からは決定的な結果を得ることはできなかった。

実習中最も印象に残ったことは、設定項目から入所者や通所者を選択した人が多い。

なお実習前より実習中の方が緊張の度合いは若干低いことがうかがえる。

実習終了後、社会福祉に対して関心を持った人は、1・2回目共約90%であり、実習前と比較すると知識の増加はかなり高いと思われる。

また社会福祉関係の職業を選択してもよいと思っている人は、1回目65.4%、2回目80%であるが、では社会福祉関係の職業に適しているかどうかという問題になると、1回目42.9%、2回目56%であり、ギャップを感じる。

2回共満足した実習であったと思う人は76%で、2回のうち1回だけでも満足した人を加えると98%が満足していることになる。

ところで、実習中はもちろん、その前後の様子を少しでも把握したいため、質問紙の中に記述欄を多く設けた。その中には実習を通して社会福祉関係の職業を断念したいという学生も若干見られる。

実態調査から社会福祉の現場実習の状況の一端をうかがうことができたと思う。

近い将来、社会福祉関係の職業（ソーシャルワーカー）を希望する学生にとって、現場実習は最初の関門であり、この経験は、学生の思考に重要な影響を与えることが考えられる。